

おはようございます。財務部工事審査・検査担当の菊池です。

私は土木技術職として、平成元年、当時の広島町役場に入庁し、札幌市南区から移り住んで36年が経ちました。当時は、田舎を感じる部分も多くありましたが、この間、街の景色も大きく変わり、地形図もかなりの範囲が変更されることになりました。

例えば、JR北広島駅東口周辺は、土地区画整理事業により農協の倉庫群が取り壊され、整備された宅地となり、JRの駅舎は、電車で本市に訪れる方を迎えるドーム型で開放的なエルフィンパークとなりました。

また、希望ヶ丘や虹ヶ丘、美咲き野、大曲光などの住宅団地は、宅地開発に併せて、現在の新しい町名となり、幹線道路についても、北広島市街から大曲を結ぶ「道道栗山北広島線」の4車線化や大曲から平岡まで繋がる「市道大曲通線」の開通、里塚から大曲工業団地を通り国道36号に接続する「羊ヶ丘通」の開通により札幌に繋がるアクセス性が強化されました。

そして、昨年3月に、「エスコンフィールドHOKKAIDO」を含む「Fビレッジ」周辺の開発によって、夢と希望の「まち」北広島へと更に期待が膨らんでいます。

一方、私が入庁した当時とあまり変わらないと感じる街の景色も多くあります。

私も住んでいる古くに造成された住宅団地などは、色んな施設も古くなると共に住民の住替わりも始まり、そこに住まう方々のニーズも多様化してきたと感じます。

私は、これからもこのまちに住む誰もが、古くなった街並みの中にも「住み心地の良さ」を感じる北広島として続いていくために、仕事を通して何ができるのか、住んでいる地域で何ができるかを考え、少しでも自分ができることに取り組むことで、今以上に北広島に愛着を深めて、長く住み続けていきたいと思っています。

おはようございます。福祉総合相談室参事の野切径代です。

みなさんは、8050、ダブルケア、ヤングケアラーといった言葉を耳にしたことがあると思います。80代の高齢の親と50代の引きこもりの子が同居しているという意味の8050、子育てと家族の介護を同時に行う意味のダブルケア、家族の介護や日常生活上の世話を過度に行っている子ども・若者を意味するヤングケアラーなど、福祉に関する社会問題の背景を言い表しています。

令和4年度に現在の名称と体制となった福祉総合相談室は、福祉分野の介護、障がい、子育て、困窮などの様々な問題・悩みへの相談を集約して総合的な支援を行う窓口として、子どもから高齢者まで切れ目のない相談支援体制を目指しています。

現在、所得格差や少子高齢化、単身世帯の増加、地縁・血縁の希薄化が進み、福祉的支援のニーズは困難・生きづらさの多様性・複雑性が表れ、1つの相談支援機関だけでは解決できない難しさがあります。

周囲が介入や支援を行いたくても、当事者が拒むこともあります。問題解決には、当事者や家族の意思を尊重しつつ、早期の相談機会につながることで、世帯が孤立しない社会との接点づくり、地域の見守りが大切で、既存の様々な制度を上手く活用していく必要性を感じております。

様々な角度からのサポートを考えた時に、福祉総合相談室では、関係する部署へ世帯情報の確認や当事者および世帯への支援に関する制度利用の相談を持ちかける横断的な動きをしていますので、情報提供や相談の際には職員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

**放送日** 令和6年11月13日(水)  
**担当者** 土木事務所長 松本 直樹

おはようございます。建設部土木事務所長の松本直樹です。

土木事務所では主に、道路、河川、公園などの維持管理業務を行っております。これらの施設に対し、例年1,600件ほどの問合せを頂いており、市民の立場になり、内容を正確に伺い速やかに状況を確認し、市職員として親切丁寧な対応に心掛けております。内容によっては、メンタル的に不調となる案件もありますが、スタッフ一同協力し合い処理対応に努めているところであります。

道路などの維持管理を行う上では、雨や風、雪や気温などによる様々な気象状況に臨機応変に対応しなければなりません。夜間や休日も含めて体制を整え、施設管理者としての使命感と、職場の一体感が何よりも大切であると考えております。職場の連帯感、組織力を向上させていくためには、情報の共有や意思の疎通が必要であり、日頃から良い職場の雰囲気をつくることを意識し、自らの挨拶や笑顔を大切にし、それが風通しのよい職場、連帯感へつながるものと考えております。

先週は市内一円降雪の状況となり、今年も本格的な雪のシーズンが始まろうとしておりますが、道路の除排雪は、冬季間の市民の生活を確保するうえで欠かせない業務であり、安心・安全な暮らしを支えるよう効率的な除排雪に取り組んでまいりたいと考えております。

**放送日** 令和6年11月18日(月)  
**担当者** 社会教育課長 木村 洋一郎

おはようございます。社会教育課長の木村洋一郎です。

さて、課の名称にもなっている「社会教育」ですが、「社会教育」とは、広くいうと学校で行われる教育を除き、広く社会において行われる組織的な教育活動のことをいい、住民の主体的な学びを支援するとともに、学びを通じて人と人がつながる機会や場をつくり、住民自ら生活の改善と豊かで潤いのある「まちづくり」の担い手となる「人づくり」という重要な役割があると言われています。

社会教育課としても、住民の方々が住んでいる地域の課題や魅力について、学びを深めるとともに、それにとどまらず、多くの住民が学んだ成果を地域活動や子どもたちの学びに活かす「学びの循環」を確立させ、学びによる人づくり、そして人づくりによるまちづくりを進めていくために、公民館での講座や体験活動、社会教育活動を行う団体の発表や交流を行う元気フェスティバルの実施など各種施策を実施しているところであり、今後についても、引き続き社会教育活動を通して、ひとづくり、まちづくりにつながるよう事業を実施してまいりたいと考えております。

また、そういった事業を実施していく担当部署として、活発で円滑なコミュニケーションのもと、様々なアイデアを出し合いながら、チームとして業務を進めていけるよう、話しやすく、意見が言いやすい職場環境が重要となりますので、そうした環境づくりに努めてまいります。

**放送日** 令和6年11月20日(水)  
**担当者** 文化課参事 蛭名 優子

おはようございます。教育部文化課参事の蛭名優子です。

図書館は、市制施行から2年後の平成10年に花ホールと共に北広島駅前に開館しました。地域の情報発信、文化交流、生涯学習の場として、市民によく利用されている施設です。開館当時から貸出数の多い図書館となっています。市役所職員の方にも学生時代に図書館で勉強していたという方もいらっしゃると思います。図書館は、様々な目的を持った方の知りたい要望に応える場所です。また、地域資料を収集し、保存していく役割を担っています。市役所内で各課において作成した行政資料を図書館に寄贈いただくことにより、保存されていくこととなりますので、ぜひ協力をお願いします。

自分事になりますが、最近思うことは、向き合う姿勢についてです。当たり前のことなのですが、やらない言い訳を並べるよりも、意識を変えて向き合うことにより、捉え方や考えが変わり、見えてくるものが違ってきます。当たり前のことを当たり前と思わずに感謝する気持ちを持つように心がけています。挨拶についても自分から発するのが挨拶で、相手に言われてするのは、返事であると聞いたことがあります。コミュニケーションの基本のひとつとしての挨拶も大切な意味を持っているものと思います。このようなことを心がけながら、今後も市民が利用しやすい図書館になるよう努めていきたいと考えています。

**放送日** 令和6年11月22日（金）  
**担当者** 企画課 主査 畑中 良太

おはようございます。企画課の畑中です。

私からは、現在取り組んでいる駅西口周辺エリア活性化事業について少しお話しさせていただきます。

この事業は、駅西口エリア内に点在する高度利用されていない4つの市有地を中心に活用して、エリアの魅力と価値を高めることなどを目的にパートナー企業である株式会社日本エスコンと官民連携で推進している事業です。

そのうち、第一弾のプロジェクトとして、商業施設とホテルからなる複合交流拠点施設がいよいよ令和7年3月に開業、また同年4月には市が管理する新たな駅前広場としてゲートパークが誕生し、賑わいと交流を生み出す新たな場所へと駅西口が生まれ変わります。また、令和8年度には認可保育所と分譲マンションなどからなる居住交流施設の整備と北広公園の一部リニューアルなどを予定しており、工事が着々と進んでおります。一方で重要なことは、ハード整備だけで終わるのではなく、いかにして市民の皆様にも愛着を持っていただき、有効に利用してもらえるか、エリアの価値と魅力を高めるソフト施策が重要であると考えております。

その一つとして、本日はエルフィンパーク市民交流広場において、オープンハウスと銘打って、北広公園の完成イメージ模型や事業経緯を説明したパネルを展示し、市民の皆様にも生まれ変わる北広公園を知っていただき、公園の有効な活用方法なども含めて意見交換できる場を設けております。午後1時から夜7時まで行っておりますので、職員の皆様含めまして、ぜひお立ち寄りいただくと幸いです。最後に、本日11月22日は良い夫婦の日です。いつも支えてくれる家族に特段の感謝の気持ちを持ちながら、これからも謙虚な姿勢で仕事に励んでいきたいと思っております。

**放送日** 令和6年11月25日(月)  
**担当者** 税務課 主査 記内 瑞穂

おはようございます。財務部税務課の記内瑞穂です。

私は平成19年度に高校を卒業してすぐに入庁し、今年で17年目になります。地元でもある北広島市ですが、当時と今でまちの姿は大きく変わり、職員に求められるものが多様になってきていると感じています。

決められたこと、言われたことをただやればよいという働き方が通用しなくなってきたのです。効率や成果がより重要視され、個人で創造する力が求められ始めたと思います。成果とプライベートの時間とを天秤にかけ、個人の責任感に頼った働き方で、今の仕事に対しての向き合い方でいいのだろうかといった戸惑いや不安を感じている方もいるのではないのでしょうか。

以前の私であれば、自分の時間を削って自己研鑽に努め、スポーツ根性だけで乗り越えてきましたが、悲しいことに今は体力も記憶力も低下するばかりで、個人の力の限界を感じています。ただありがたいことに、この17年間、たくさんの方から優しい言葉も厳しい言葉もかけていただき、職員としての今の私があります。周りの職員の人柄や仕事の姿勢を知っている強みがあるからこそ、効率化を図り成果を出すためには、確実にその方たちの力を借りなければ成し得ないと気付きました。まさに、部署を超えたチーム戦なのです。スタッフ職のときは苦手としていたこともひとつの経験として挑戦してきましたが、主査となった今は、部下の得意不得意や経験を先に考えるようになりました。

職員としてまだまだ未熟で、人を牽引するタイプでもない私が主査となり、上司や部下には迷惑をかけていると思いますが、スタッフ職で培った知識、経験、人とのつながりを部下に伝えること、部下と一緒に成長することに活かしたいと思います。

最後になりますが、ここまで働き続けられたのは、上司や先輩、同期、後輩の皆さんのおかげです。思うように成果が出せなくて悔しくて泣いたことも、ひとつの仕事が形になって嬉しかったことも、全てが自分の武器になり、最高の経験になっています。

年齢や経験に関係なく、誰からも、良いところを学び盗み、職員としても人としても成長していきたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



**放送日** 令和6年11月27日(水)  
**担当者** 契約管財課 主査 木村 勇人

おはようございます。契約管財課の木村勇人です。

今年度新設された契約管財課に主査職として配属され、主に公共施設の一元管理体制の構築の実現に向けた検討を進めています。前例がない業務であるが故の不安とこれからの将来を見据えた実効性のある計画を考えるワクワク感が入り混じった8か月間であったと感じています。さて、本日は業務を行う上で意識していることについてお話したいと思います。

我々が日々行っている業務は大小様々ですが、すべて何かしらの意味があります。中には内容を理解せずとも行えてしまうものもありますが、なぜこの業務をなぜこの方法で行うのかといった根本を意識することで、その仕事に対する理解が深まり、時には業務改善につなげることができると思います。勉強やスポーツにも言えることですが、基礎がないと応用はできません。これは仕事も一緒に前提がわからないと一辺倒の考えしかできず、多角的に物事を見ることができなと思います。全体を見通す力を身に着けることが、今後求められるスキルの一つと私は考えています。

公務員の業務が多種多様化する中、すべてを深堀して突き詰めるのは、現実的に難しいですが、日常的に考える癖をつけること、疑問にもつことを意識し、これからも業務に携わっていきたいと思います。



**放送日** 令和6年11月29日（金）  
**担当者** 市民生活課 主査 高山 泰徳

おはようございます。市民生活課の高山です。

今日は、市民生活課の様々な業務のうち、「町内会」についてお話したいと思います。

最も身近な地域コミュニティである「町内会」は、それぞれが独自に、住みよいまちづくりのため、住民同士の交流や地域の課題解決に向けた取り組みを行っている団体です。一方で、地域と行政をつなぐパートナーとして、回覧板による行政情報の周知やごみステーションの管理、防犯灯の維持管理、交通安全の取組など、様々な分野で行政を補完する役割も担っていただいております。市役所にとっても無くてはならない存在です。

しかし、町内会も少子高齢化やライフスタイルの変化から、団体運営を持続できるのかという課題が顕著になっています。私は入庁から11年間、市民環境部に在籍し、環境課で4年間、市民生活課で約7年間、町内会と関わってきました。町内会の方とお話をする中で、町内会を取り巻く環境は大きく変わったと感じています。

市民生活課としても町内会の課題解決のため、地域のDX化による負担軽減策など、様々な取組を進めたいと考えています。皆様におかれましても、「この回覧情報、町内会を通じて出す必要があるかな？」とか、「発行する頻度はこのままでいいかな？」など、事務の見直しの際、少しでも、町内会の気持ちに寄り添ってもらえたらなと思っています。